

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	18 - 学長 - 6
-----------------	-------------

平成18年度配分 研究成果の概要

研究名	オーストラリアにおける多文化主義政策とエスニック文化の現在				
配分を受けた特別研究費	学長特別研究費				3000千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策	国際文化	准教授	池上 重弘	研究の統括、インドネシア系住民コミュニティにおける定住支援活動と母語教育
共同研究者	文化政策	国際文化	教授	高田 和文	イタリア系住民コミュニティにおける文化活動(とくに演劇活動)
	文化政策	国際文化	准教授	岡田 建志	ベトナム系住民コミュニティにおける文化をめぐる状況
	文化政策	国際文化	准教授	下楠 昌哉	多文化社会においてグローバリゼーションを志向する言説編成
	文化政策	芸術文化	講師	佐野真由子	芸術分野における多文化主義政策の方向性
発表の方法	1 紀要	号数		第 号 (平成 年 月 発行)	
	2 学会等での発表 学会等名: 詳細は別紙参照	発表日 (発表 予定日)		平成 年 月 日 平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: 別紙参照	発表日 (発表 予定日)		平成 年 月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

20 世紀末より急速に進展したグローバリゼーションに伴い、世界各地の都市で多文化化・多民族化が加速した。こうした状況はさまざまな摩擦・社会問題を引き起こしているが、他方で社会に新たな活力をもたらしている。2005 年度の学長特別研究(「オーストラリアの都市におけるエスニック文化の多様性」)に引き続き、2006 年度の本研究は、21 世紀の都市の魅力を考える上でその文化的多元性を積極的に捉える視点は欠かせないという立場を取る。多文化主義の政策が展開しているオーストラリアを事例に、都市における文化的多元性のあり方について考察することが本研究の目的である。

(研究の実施方法等)

本研究の柱は2つある。すなわち、教育・福祉・芸術など諸方面にわたるオーストラリアの多文化主義政策を把握すると共に、その具体的な現れとしてのエスニック文化の現況を調査することである。研究メンバーのいずれもが、オーストラリアの都市において情報収集・フィールドワークを行った。

池上は多文化主義政策全般について文献調査を行なうとともに、シドニーのインドネシア系住民コミュニティの調査を継続・発展させた。インドネシア系永住者の子どもたちを対象としたインドネシア語補習校の運営に関する継続調査とインドネシア系住民に対するNGO等による定住支援活動の参与観察を実施した。

高田は2005年度、シドニー、メルボルンにおけるイタリア系コミュニティの文化活動の概要およびシドニーにおけるイタリア人劇団の活動について調査を行なった。2006年度にはこれらについてさらに詳しい調査を行なった他、アデレードを拠点として多言語による演劇活動を行なっているイタリア系劇団(ドッピオ・テアトロ)の訪問し作品を観劇した。

岡田は、シドニー・メルボルンのベトナム系住民コミュニティについて、教育・福祉の分野におけるヒアリング・参与観察により調査を行なった。また、言語・教育・文化活動を中心にオーストラリアのベトナム系住民の状況全般に関して文献調査を行なった。

下楠は、多文化主義が標榜されているオーストラリアにおいて、英語を母語とする人々が発信する学術的あるいは芸術的言説に幅広く見られるグローバリゼーション志向を調査した。ニューサウスウェールズ大学で開催された学会の研究発表では、オーストラリアの研究者が提示したグローバルな言説としてのボヘミアニズムに着目し、その文脈からアイルランド文学作品を論じた。また、その大会における主要トピックとしては「間テクスト性」があげられており、国境を始めとする各種ボーダーを横断した研究発表が多数発表された。その場での情報交換により研究を深化させた。

佐野は、今日のオーストラリア文化政策において最も主要な論点の一つである、アボリジニ・アートの取り扱いをテーマに活動を進めた。2002年にオーストラリア・カウンシルが公表したアボリジニ・アート表象をめぐるプロトコルを研究の起点とし、同カウンシルを含むオーストラリア主要文化機関においてアボリジニ政策を統括する専門家らへのインタビュー(2006年9月キャンベラおよびシドニーにて実施)を通じて、広く「文化政策の倫理」の問題として敷衍できる方向を意識しつつ考察を進めた。

(得られた成果等)

オーストラリアに関するこれまでの特別研究の成果は、本学で開講されている「現代人類学」、「ナショナリズム論」、「表象文化論」、「芸術社会概論Ⅰ」、「アートマネジメント基礎演習Ⅰ」、「文化資源論(院)」等の講義科目を通じて学生にも還元されている。

オーストラリアの多文化社会について、移民・難民の出身地の言語や文化的背景に通じた研究者グループによる共同研究はあまり例がなく、オーストラリア研究に新たな視点をもたらすことができた。

本年は、国際交流基金やユネスコでの実務経験が豊富で、オーストラリアと並んで多文化主義の事例としてよく比較されるカナダの文化政策についても明るい佐野が加わった。これによって政策面の研究と個々のエスニック集団に関する研究を結びつけるアプローチがこれまで以上に強化され、オーストラリアの多文化主義をマクロな視点とミクロな視点の双方からより多角的に検討できるようになった。佐野は、本学着任前の仕事に関連した人脈をもとに、今回のプロジェクトを通じてさらにネットワークを深め、広げることができた。

研究成果の実績報告の詳細(2007年8月4日現在)

■1■ 活字での発表

1. 紀要

なし

2. その他

下楠昌哉. 翻訳:キム・スコット「光の中へ」「捕獲」「すばる」特集:オーストラリア文学、第28巻第6号(2006年6月)253～66頁および上記作品の解説、266～68頁。*備考:特集全体のプロデュースを行った。

■2■ 学会等での発表

1. 学会・研究会での発表

池上重弘. 国際シンポジウム 多文化共生～オーストラリアから学ぶ

基調スピーチ「中部地域における多文化共生の現況とオーストラリアから学ぶこと」

パネルディスカッションにおけるコーディネーター 2007年1月27日 於名古屋国際センター

下楠昌哉. シンポジウム:『すばる』掲載作品の翻訳、解説をめぐって」オーストラリア・ニュージーランド文学研究大会、2006年11月25日、立命館大学衣笠キャンパス末川記念館第一会議室。(司会:佐藤渉立命館大学専任講師、共同発表者:有満保江同志社大学教授、湊圭史立命館大学講師)

下楠昌哉. 研究発表:“Dublin Bohemia,” IASIL (The International Association for the Study of Irish Literatures) Conference 2006, 21 July 2006 at The University of New South Wales, Sydney, Australia.

佐野真由子 『伝統の守り方』——アボリジニー・アートの場合、ジャパニーズ・アートの場合」日本基層文化研究会(東京)、2006年12月23日

2. 本学文化芸術セミナーでの発表

「オーストラリアの芸術と文化—多文化社会の現在を見る—」2007年2月17日

【イントロダクション】池上重弘

浜松でオーストラリアに思いを馳せる

【報告1】下楠昌哉

ブッシュから多文化へ—豪州ミニ文学史—

【報告2】高田和文

オーストラリアにおけるイタリア系コミュニティの演劇活動について

【報告3】佐野真由子

アボリジニー・アートの「正しい展示」をめぐって

3. 政策提言系の会合での発表

池上重弘. 第2回 静岡県多文化共生推進会議での委員講演

「移民の社会統合をめぐるオーストラリアとドイツの政策」

2006年11月15日 於静岡県庁別館9階第1特別会議室

■3■その他

池上重弘. 2006年度「Mini 大学 in 榛原高校」

「多文化社会としての21世紀日本—オーストラリアとの比較から—」

2006年10月20日 於榛原高校

池上重弘. とよかわ市民大学専門講座「国際化探求コース」グローバル化と多文化社会 第4回講演

「オーストラリアのアジア系コミュニティ—シドニーの事例—」

2006年10月10日 於豊川市勤労福祉会館

池上重弘. とよかわ市民大学専門講座「国際化探求コース」グローバル化と多文化社会 第3回講演

「オーストラリアの多文化主義」

2006年10月3日 於豊川市勤労福祉会館

池上重弘. 静岡県西部高等学校英語教育研究会 夏期研修会 講演

「オーストラリアにおける移民のための英語教育と母語教育」

2006年8月4日 於Uホール